

<参考資料> 中小企業診断士第2次試験の出題の趣旨

中小企業診断協会が公表している出題の趣旨です。

平成18年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例」の出題の趣旨

第1問（配点30点）

事業展開および経営の独自性・独立性が担保されている子会社の事業展開に対して、資本関係のある出資企業（親会社）の与える何らかの影響に関して、中小企業診断士の立場から、その強みおよび弱みを分析する能力を問う問題である。

第2問（配点30点）

（設問1）

A社のビジョン実現に向けて不可欠となる黎明期にある海外事業を、今後、どのような方向で発展・拡大させていくべきかに関して、海外営業拠点の活用を中心に問う問題であり、中小企業の海外事業展開に関する基本的理解と助言能力を問う問題である。

（設問2）

A社のビジョン実現に向けて事業を拡大していく際に、主要顧客である出資企業の経営方針の変化に対して、どのような戦略的対応を図っていくことが重要であるかに関して、中小企業診断士としての助言能力を問う問題である。

第3問（配点30点）

（設問1）

変化する経営環境の中で新規事業を展開していくに当たって、化学品の専門商社であるA社の現状の組織構造の問題点がどこにあり、その結果、どのような弊害が生じているかを分析する基本的能力を問う問題である。

（設問2）

（設問1）で分析した事実を前提に、今後、A社が新規事業を展開していく上で構築すべき組織の編成に関して、基本的知識と助言能力を問う問題である。

第4問（配点10点）

近年改正された高年齢者雇用安定法に関する基本的理解と、その法令の施行がA社の経営あるいは組織運営に及ぼす影響について分析する能力を問う問題である。

平成 18 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例」の出題の趣旨

第 1 問（配点 20 点）

B 社のような規模のテニススクールが大手テニススクールに対して競争を挑んでいく上で、B 社が採用すべき差別化戦略がどうあるべきかを分析する問題である。

第 2 問（配点 15 点）

サービスが持つ無形性、生産と消費の同時性などの特有の性質を理解した上で、B 社が需要の変動に対して、提供しているサービスをサービスの流通という側面において、どのように対処しているのかを分析する問題である。

第 3 問（配点 30 点）

B 社が新規事業として学習塾を始めるに当たって、B 社が持っている経営資源を有形資源と無形資源に分類・整理し、その中で学習塾の経営に生かせるものを分析する能力と新規事業への応用力を問う問題である。

第 4 問（配点 15 点）

B 社が新規事業として学習塾を始めるに当たって、競合他社に対し新規参入業者として、B 社の持つ経営資源をどのように生かした差別化戦略で挑むべきかを分析する能力と問題解決能力を問う問題である。

第 5 問（配点 20 点）

学習塾以外に実現可能なものとして想定される B 社の新規事業について、その戦略ドメインを導き出すために、市場ニーズ、顧客層に対して、独自能力をどのように統合していくかという、分析力と創造力を問う問題である。

平成 18 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例」の出題の趣旨

第 1 問（配点 10 点）

コストダウン要請の厳しい自動車業界にあって、C社の経営のどこに好業績を続けている理由があるかを読み取ることができるかについての情報把握能力と情報分析力を問う問題である。

第 2 問（配点 25 点）

得意先分散などの得意先構成と、具体的な取引場面で起こりうる生産拡大要請という問題をどのように関連づけ解決できるかについての問題認識能力と問題解決能力を問う問題である。

第 3 問（配点 25 点）

グローバル化時代の生産対応としての海外進出という潮流の中で、国内生産に固執するための条件を、C社の現状を踏まえ、どこまで提案できるかについての問題認識能力と問題解決能力を問う問題である。

第 4 問（配点 20 点）

地球環境問題に取り組んでいる自動車業界の中にあつて、技術開発力の強化という視点のみでC社の三価クロメート処理への対応を理解するだけでなく、環境経営との関連を含めてどこまで理解できるかについての情報把握能力と問題認識能力を問う問題である。

第 5 問（配点 20 点）

情報システムの整備に当たって、管理データとしてどのような属性と項目が提示できるかについての情報把握能力と問題解決能力を問う問題である。

平成 18 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例」の出題の趣旨

第 1 問（配点 30 点）

D 社が抱えている問題点を財務分析の面からの的確に指摘できる能力を確認するために、提示された財務諸表と D 社の状況説明文から判断して、適切な経営指標を選択し、その名称および算出方法が正しく理解できているか、さらに問題点とその原因を論理的に説明できるかを問う問題である。

第 2 問（配点 20 点）

（設問 1）

企業の財務的側面の診断にはキャッシュフローを的確に把握する能力が求められるが、基礎知識としての、営業活動、投資活動および財務活動によるキャッシュフローの計算能力を問う問題である。

（設問 2）

（設問 1）の計算結果に基づいて、D 社のキャッシュフローに関する問題点を的確に分析する能力を問う問題である。

第 3 問（配点 20 点）

（設問 1）

D 社の店舗タイプごとの採算性について、売上高、変動費および固定費の観点から検討する能力を確認するために、限界利益率および貢献利益率を算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

D 社の店舗タイプごとの採算性を判断するに当たり、どのような視点から検討すべきかを問う問題である。

第 4 問（配点 15 点）

追加的な投資案の採算性を検討する際に考慮すべき内容とその計算方法を正確に理解しているかを問う問題である。

第 5 問（配点 15 点）

（設問 1）

POS システムをより有効に活用するための現状把握および改善案作成について、仕入・在庫管理という課題からその能力を問う問題である。

（設問 2）

（設問 1）と同様に、POS システムをより有効に活用するための現状把握および改善案作成について、効果的な商品入れ替えという課題からその能力を問う問題である。

以上